「礼拝と捧げ者（物）の回復と継承」

～主よどうか私をきよめて用いてください！！～ネヘミヤ 13：30 ～ 31

私たちが生きるこの世の中においては人が人であるための「教育」というものはとても大切です。その教育が国によってはほとんどなされていないところもある一方で、日本においては一見すると教育がきちんとされているようですが本当に正しいものなのでしょうか。神様は私たちに聖書という書物を与えています。そして父が子に教育をするように制定されました。父である神様が人間を造り、父である神様が人間を立て、その人間に聖書の奥義と神の本質を教え、その中心に愛があり、その愛が人を愛することと許すことを示し、その教えが本来の人を保つための教育である事を私たちは知っているわけです。教育は儲けるためではありません。教育は文化的生活を送るためでもありません。教育は人が人であることを教えるためにあるのです。でもその教えが今、先進国でも、また発展途上国でも失われている現状の中で私たちクリスチャンは自ら聖書のスタンダードに立っていなければいけないのです。もし聖書の真理の教えから私たちがずれていたらどうでしょうか。ここでネヘミヤという人が何を教育され、学んで、教えたのかを見ていきたいのです。ネヘミヤはこの世の中の法則を学び、そしてその恵みに生きる事を教えました。皆さんは世の中の法則を学びわかっていますか？「ことわざ」も教えの一つであり法則から成り立っていることも多く聖書の中にも箴言をはじめ様々なストーリーとして書かれています。聖書は教典のように良い教えが書かれているのではなく、良い教えを知りそれを生きた人と生きなかった人が描かれているのです。神の心である良い教え、正しい事を見る力は私たちの心の中にあります。ですから聖書はそのことを忘れないように聖書を通して真理の道を通った人と通らなかった人をわざわざ書いたのです。そしてソロモンはその生き様を通してことわざを箴言で書き綴りました。私たちはこのことわざからもう一度学ばなければいけないのです。

日本には春夏秋冬があり季節風が吹き法則を保っています。では私たちの人生は法則を保っているでしょうか。人は自分の為に何かをする事には喜んで行いますが、その何かのために自分を保っているでしょうか。神様は一つの循環を何百通りもの法則を天体万物・被造物を用いて保ち私たちに教え、人はそのルールに立って生きなければ生きることができない事を伝えています。被造物は変わらないのにその変えてはいけないものを変えてしまうのが人間なのです。人間によって本来変わることのない、また変えてはならない天体でさえ変わってしまったことで周りに与えた影響はどれほどのものでしょうか。人間が犯した罪はこのようなものです。私たちは自分の人生は自分の勝手だと思い本来わかっているにも関わらず歩むべき道を損なってしまいました。そのことが周りにどれほど影響を与えているか理解しているでしょうか。すべての人が悪い影響を与えているわけではなく１人の人が思い立って良くすることもあればその逆もあるわけです。歴史は絶えずこの繰り返しで、１人の人の判断がどれほどの影響を与えているかがよくわかります。私たちが悪い影響を与える判断はとても小さな部屋でたった一人で決断している事が多いのです。

「You have」「I have」

ｋｉｋｉさんが自分にとって必要な学びを求めてアメリカに向かいたくさんの素晴らしい教会に行きました。どの教会も実に素晴らしく礼拝は満ちていました。ただそこにあったのは何も変わらない神様の愛でした。自分にないものを求めて行きましたが、神様はもうすでに自分に与えてくれていた事に気付いたのです。飛行機が飛ぶ時には常に２名のパイロットが操縦席に座りますが操縦桿を握る操縦士は「Ｉ　ｈａｖｅ」と宣言し全責任を受けます、そして副操縦士は「Ｙｏｕ　ｈａｖｅ」と相方に託すのです。これは正に神様とあなたの関係であり神様は私たちに「Ｙｏｕ　ｈａｖｅ」と全てを任せているのです。私たちは神様から任された操縦桿を正しく握っているでしょうか。

①主の日を尊ぶ

ある牧師先生の本に書かれていました。「あなたが安息日を守るのではない。安息日があなたを守るのだ。」神様は私たちに週６日働いて１日休むように言われました。ですが礼拝に来ているだけでは意味がありません。礼拝を尊んでください。それぞれの立場で礼拝に集い日曜日に教会で過ごし交わることがどれほど大事かを理解しなければいけません。人は神様の前に賛美し礼拝すると正しい道に戻るのです。神様は神様のために時間を使い人生をかけた人が用いられ祝福されていく姿を、あなたを通して全ての栄光が現わされるところを見ておられます。時に教会に行きたくないと思うかもしれません、ですがそのような時こそ神様はあなたに働かれ成長させてくれるのです。若い世代の人にとっては、この先、人生においての色んな岐路に立たされますが主の日を尊ぶ者は間違うことがありません。

②十分の一の人生

人間は自分の為にお金を使うことは平気ですが隣人のためにはそれが簡単にはできません。それだけ自分のものになってしまい十分の一でさえ躊躇するのです。私たちは裸で生まれ裸で死にます。あなたが今持っている食物、空気、生きているということ、命でさえあなた自身で得たものがあるでしょうか。かつて人間は十分の一を捧げる事を喜んでしていたのにだんだんと出来なくなりました。結果その人の人生には問題がつきまとっていったのです。なぜなら「誰でも得ようとする者はそれを失い、それを失う者は得る」という法則があるからです。祝福されることを選んでいきましょう。

③その継承

今のあなたの生き様はあなたの弟子に継承されていきます。あなたが神様を大事にし、主の日を尊び、十分の一を捧げる者でいましょう。母親がどのような姿勢で祈るか、父親がどのような姿勢で信仰の人生を生きるのか、これが全てです。そして子どもに夢を描かせたいのであれば親が夢を描かねばいけません。皆さんはどうでしょうか？今のあなたの生き様を子どもに見せることができますか？イエスキリストは生き様を残しました。それぞれの役割を果たすことが出来るように私たちも歩んで行きたいと思います。

（要約者：西嵜　真由美）

（２０１９年3月１０日）